

1 教育・保育方針(目指すこどもの姿)		
①元気で明るくのびやかな子どもの育成 ④節度ある態度が身につく子どもの育成	②よく考えることができ、自主性のある子どもの育成 ⑤誰とでも仲良く、思いやりのある子どもの育成	③創造性が豊かで、最後までやりぬく子どもの育成

2 教育・保育目標		
①安心・安全な環境の中で、明るく情緒が安定した園生活を送れるようにする。 ②戸外遊び、運動遊びをしっかりと行い、身体の調整力を伸ばす。 ③人の話を聞き、子どもが主体的に自ら考えたり選んだりし、自分の言葉で発信できるようにする。 ④絵本の読み聞かせ、廃材制作などを通して、集中力、創造力を身につける。 ⑤様々な活動の経験や物的、人的環境を通して豊かな人間性が身につくようにする。		

4 自己評価						
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	質問内容	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
園経営・運営	園教育目標の具現化	・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新	園は、月々の目標や日常の教育活動の様子などわかりやすく伝えている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・各学年の月目標を園だよりやクラスだよりで保護者への周知に努めたことにより、昨年度より肯定率が約10%向上した。今後は、月目標の達成度(状況)について振り返り、改善に生かしていくPDCAサイクルを構築する必要がある。 ・園行事や園での生活・活動をブログに即時掲載し、こまめな更新に努め、好評を得た。
	保護者の参画意識の醸成	・公開保育(参観日)の実施 ・様々な園行事の公開 ・未就園児の会の開催	園は、子育て支援・保育参観・保育参加など、行きやすい雰囲気幼稚園づくりを積極的に行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・運動会やマラソン大会、発表会等の大きな行事はもちろんのこと、参観日や誕生日会等にも来園者が多かったことから、保護者の我が子への愛情の強さを感じた。 ・未就園児の会「あそび」において「よ」に加えて、本年度から本園への入園希望者を対象とした「プレイクラブ」をスタートした。毎回募集人数以上の応募者がありニーズの高さを感じた。
	緊急体制の確立	・れんらくアプリの活用 ・引き渡しカードの作成・確認	園から、緊急の場合の連絡方法など、対応について知らされている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・台風接近時や降雪・凍結時には、できるだけ早く園の対応をアプリで知らせ、保護者が勤務の調整ができるように努めたこと、大きな混乱がみられなかった。 ・引き渡しカードの点検・見直しを図るとともに、災害を想定した引き渡し訓練の実施が必要と考える。
	危機対応体制の確立	・月1回の避難訓練の実施 ・毎月の施設及び遊具点検 ・毎日の保育室の安全点検	園では、防災・避難訓練など、園児の安全に関する適切な指導を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・地震、火事、大雨、水害、不審者等を想定した避難訓練を毎月実施し、大型絵本や寸劇等で安全な避難について指導している。今後は、外部指導者を招聘したい。 ・毎月の定期点検に加え、毎日の目視点検及び清掃を実施し、遊具や保育室の安全確認に努めている。
	積極的な情報発信	・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新	園は、幼稚園の情報を園だより、クラス便りやブログなどを通じてわかりやすく保護者に伝えている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・園だよりでは、巻頭文で園での子どもの様子や園の保育・教育方針等を記述するとともに、保護者へのお願いやお知らせを掲載している。 ・子どもの活動の様子や行事の様子を、わかりやすい文章とたくさんの写真で伝え、読みたくなるクラスだよりやブログになるように工夫した。
	相談体制の確立	・連絡帳やれんらくアプリの「連絡帳」の活用 ・個人懇談の実施(1・3学期) ・必要に応じて、随時、相談を実施	園は、子どもの事や保護者の相談を聞く姿勢や体制をつくっている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・年2回の個人懇談の機会を設定するとともに、保護者からのアプリ「連絡帳」での質問や相談に対しても丁寧な対応に努めている。 ・送迎時に声掛けをしたし些細な出来事も伝えるようにしたりして、話しやすい雰囲気づくりやポータル形成に努めている。継続して取り組みたい。
	預かり保育の充実	・家庭の実情を踏まえた預かり保育の受け入れ	園の預かり保育(長期・時間外)について満足している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・異年齢集団による保育のため、子どもたちも互いに学び合うことが多い。 ・預かり保育の人数が毎日100名を超えている。担当教職員の人数確保に苦慮しながら、長期休業中や午前保育でも、給食の提供等、保護者の支援となるよう対応に努めている。 ・人数の多さから、本年度は、長期休業中は学年別に各保育室に分かれて各学年担当者による保育を試みた。
知	発達段階に応じた教育	・各学年の教育・保育目標の設定 ・子どもに寄り添った教育・保育活動の実践 ・保育日誌による記録と振り返り ・必要に応じて個別の教育支援計画及び指導計画の作成 ・読書活動の推進	園は、子どもの発達に合った保育活動や園行事を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指標として、子どもの思いや願いを見取り、保育・教育活動に取り組んできた。 ・お話を会やおうたの会のご協力を得たり、お迎えを待つ時間等を活用したりして、読み聞かせを適時に実施していることが、読書への関心の高まりにつながっている。
徳	基本的な生活習慣の形成	・登降園時のあいさつの励行(保育教諭の出迎えや声かけ) ・活動後の後始末の習慣付け ・「自分のことは自分で」の励行	園は、あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付け、生活できるように指導している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・保育者から率先して挨拶をする姿を見せ、子どもたちの手本となるように心掛けている。挨拶に対する意識が高い保護者は、子どもに好影響を及ぼしている。 ・身の回りの整理整頓(後始末)については、担任や補助保育者が、個別対応をしながら丁寧に指導している。園児が自分で取り組む姿が見られるようになった。
	交通安全指導の徹底	・定期的な交通安全教室の開催 ・正門前の横断歩道にて、渡り方指導 ・園外保育等での道路の歩き方の指導	園では、幼児の交通安全について子どもと保護者に適切な指導を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・学期に1回、交通安全教室を開催し、大型絵本や寸劇を通して、交通事故の恐ろしさや交通ルール等を指導している。本年度は、年長組園児を対象として、JA山口県や山口南警察署と連携した交通安全教室を開催した。 ・毎日の送迎時に保育者が正門前の横断歩道に立って渡り方指導を行い、親子の交通安全意識を高めている。 ・園外保育等でも、バスの乗り方や道路の歩き方について指導した。
	安心感のある園づくり	・子どもの表情等の観察(小さな変化を見逃さない) ・保育教諭の声かけ ・全教職員による見守り及び情報共有	子どもが喜んで登園し、明るく元気に遊んでいる。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・子どもの心と体の安心・安全を最優先とし、個々の子どもに声掛けをしたり全教職員で個々の子どもを見守ったりしている。 ・子どもの些細な気づきを伝え合い、学年会や職員連絡会等で教職員で共有するようになっている。
	動植物への愛護心の育成	・季節の花を楽しむ花壇の整備 ・野菜の苗植え・収穫 ・うさぎの飼育と観察	園は、飼育栽培などを通じて動植物との関わりを持てるようにしている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・園外保育でおいしませファームに出かけ、さつまいもやじゃがいも、玉ねぎの植え付けや収穫を行っている。園庭の花壇でも季節折々の花や野菜を栽培している。しかし、園児にとって日常的な栽培活動となっていない課題がある。 ・めだかの観察ができるように園庭に水槽を設置した。興味を持つ子どももいる。 ・ブログで栽培や飼育の様子も伝えていきたい。
体	健康管理の徹底	・毎朝の健康観察の実施、アプリの確認(体温) ・毎朝の保育室の環境の点検 ・体調不良時やけがをした時における、適切な初期対応及び家庭への確実な連絡 ・感染症状況のお知らせ	園は、子どもの健康状態を把握し、健康管理について適切な処置をとれている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・毎朝、担任がアプリ「連絡帳」を確認し、個々の健康状況の把握に努めている。体温の入力がない家庭への働きかけが必要。 ・毎朝、保育室の室温・湿度・臭い等を点検・記録し、良好な環境で園児を迎えるようになっている。エアコンや空気清浄機を適切に使用し、健康管理に配慮している。 ・感染症の流行の兆しがある場合や特定の症状による欠席者が多い場合は、アプリで情報提供している。
	体力向上の取組	・戸外遊びや運動遊びの励行 ・体操教室(年中組、年長組) ・なわとび運動への取組(年長組) ・マラソン大会に向けて持久力の育成 ・毎月の発育測定・身体測定の実施	園では、子どもの体力づくりに積極的に取り組んでいる。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・戸外遊びを好む園児が多く、鬼ごっこや遊具遊び、サッカーを楽しんでいる。特に大型遊具でのアスレチックは、どの学年においても大人気である。 ・講師を招聘しての「体操教室」を定期的に開催している。様々な体づくり運動を通して、体幹の強化と俊敏性の高まりを感じる。 ・マラソン大会に向けて、計画的に練習に取り組み、持久力向上を図った。
	安心・安全な給食の提供	・検食の実施 ・毎月の給食だよりの発行(季節行事を踏まえた献立や旬の食材を使った給食) ・食物アレルギーのある園児への対応	園の給食の献立内容やアレルギー対応に満足している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・食の安心・安全を第一義として給食やおやつを提供している。食物アレルギーのある園児には、園生活管理指導表の提出を依頼し、保護者と栄養士が面談の上、代替食等に対応している。 ・季節行事や旬の食材を活かした献立の立案に努めている。3学期には、リクエスト給食を実施し、子どもも喜んで食べていた。

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
◆昨年度に比べて、16項目中14項目において肯定率が上昇した。そのうち2項目については10%以上の高まりがあった。全項目において、達成度「4」を目指して取り組んでいきたい。 ◆子どもにとっては「行きたくなる園」、保護者にとっては「行かせたくなる園」を目指して、「安全・安心」を最優先とし、全教職員が一丸となり、子どもをまんなかに据えた保育・教育活動に取り組んだ。子どもたちは元氣よく園生活を過ごしていたように感じる。また、ユニバーサルデザインの視点に立ち、特別な支援を必要とするか否かを問わず、どの子ども大切に保育・教育を進めている。 ◆本園の特色は、遊びを核とした保育・教育活動を展開していることである。子どもは、遊びを通して様々な経験を重ね、認知能力とともに非認知能力を高めている。 ◆令和6年11月に小郡ブロック幼保小連絡協議会主催による公開保育を本園で実施し、近隣の幼保や小学校から多数の参観があった。子どもが環境を生かして主体的に遊びをつくらせている姿に、参観者から賞賛の声が上がった。小郡小学校との交流活動も日常的に定着してきた。今後、さらに子ども及び教職員の交流を深め、充実させていきたい。 ◆共同研究1年次では、「子ども理解」をテーマに設定し、保育者の話し合いと記録に視点をあてて研究をスタートした。2年次は、話し合いの内容や記録の方法について、研究を深めていきたい。 ◆保護者の協力を得て感染症対策の徹底に努めたことにより、インフルエンザによる学級閉鎖の措置は講じたものの、園全体に大きく広がることはなかった。 ◆令和7年4月の幼保型認定こども園への移行に向けて、認可手続きの準備及び体制づくりに努めた。今後、子育て支援事業等のさらなる充実が求められる。ニーズに応えられる人材確保や物的環境の整備も急務な課題である。	